

第2号様式（第5条）【公開】

提 案 書

提案名 (25字以内)	高島水際線公園における生物生息状況把握調査
グループ名 (25字以内)	都市型干潟の楽しい使い方研究チーム

【1】グループの現在の主な地域社会貢献活動の内容及び最近5年以内の実績を記入してください。

都市型干潟の楽しい使い方研究チームでは、これまで神奈川区の横浜港湾・空港技術調査事務所にある階段型の干潟において、干潟に生息する二枚貝類やその周辺水域における魚類の生息状況を調査して、干潟がより多くの生物が生息できるようにするための工夫やそれらの干潟を楽しく利用するための方法について提言してきました。なお、これらの調査研究は、参加者の自主的な取り組みによるもので、国その他研究機関等の予算を用いた事業ではありません。

詳細は以下のホームページにあります。

<http://www.meic.go.jp/wiseflat/index2.html>

【2】助成を受けて行う活動の年間計画を記入してください。

月	内 容
4月	
5月	
6月	24日 第一回生物調査 目視による生物探し、砂を採取してその中の生き物をふるいで採取する。引網で魚を獲って観察する。（以下同じ）
7月	22日 第二回生物調査
8月	19日 第三回生物調査
9月	17日 第四回生物調査
10月	14日 第五回生物調査
11月	11日 第六回生物調査
12月	16日 第七回生物調査
1月	14日 第八回生物調査
2月	11日 第九回生物調査 生き物パンフ作成・印刷
3月	17日 第十回生物調査 年間活動・振り返り会

【3】助成を受けて行う活動の内容について、次の項目に沿ってご記入ください。

- (1) 活動の内容 (2) 活動の主催者及び参加者 (3) 活動を実現するための方法 (4) 時期 (5) 場所 (6) 当地区で活動を行う理由 (7) エリアマネジメントの効果 (8) その他、特徴やアピールする点

(1) 活動の内容

生物観察および魚介類の採取

- 干潟の潮だまりなどの水質（水温や塩分など）を測定する。
- 干潟面等の生物の生息状況を観察しスケッチ等で表現する。
- 特別採捕の許可を得てネットで魚類を採取して種類等を分析する。
- 周辺住民等に声をかけて、一緒に活動する。

生物パンフレットの作成

- 発見した生き物の写真と名前・特徴などの記載したパンフレットを作成する。

(2) 活動の主催者及び参加者

主催者：都市型干潟の楽しい使い方研究チーム

参加者：調査研究の趣旨に賛同する市民、地域住民及び高島水際線公園を利用するその他市民で興味を持つ方

(3) 活動を実現するための方法

すでに公園の管理者には調査実施許可をいただいており、安全に配慮しつつ市民の参加を呼び掛けます。市民の参加については、海辺つくり研究会と連携し、これまで夢ワカメワークショップ等の取組で連携した地域住民等の呼びかけや活動チラシの配布等を行います。また、これまですでに2回実施しており、周辺を散策する市民等でリピーターとして調査に加わる市民も現れています。調査の継続は市民参加の拡大の鍵の一つとなると考えます。

(4) 時期

実施スケジュールに示した通りです。大潮の干潮時を中心に時間設定しております。

(5) 場所

高島水際線公園の潮入りの池

(6) 当地区で活動を行う理由

市民が直接海辺の生物にふれあうことのできる貴重な水面であること。また、これまで国土交通省の事務所内での調査を行ってきましたが、高島水際線公園に新たな干潟ができ、より市民に親しめる可能性が生まれたことから、調査対象とするフィールドを変更して、都心の真ん中の身近な場所に海辺の豊かな自然が復活していることを知り、生き物とのふれあいの楽しさを地域の人々とともに理解することを通じて、みなとみらいの新しいふるさと名所としていくことを目指します。

(7) エリアマネジメントの効果

MM21にあって貴重な水辺の自然と触れ合うことができる場であり、その資源を活用することで、都市の新たな魅力の創出につながることができると考えます。

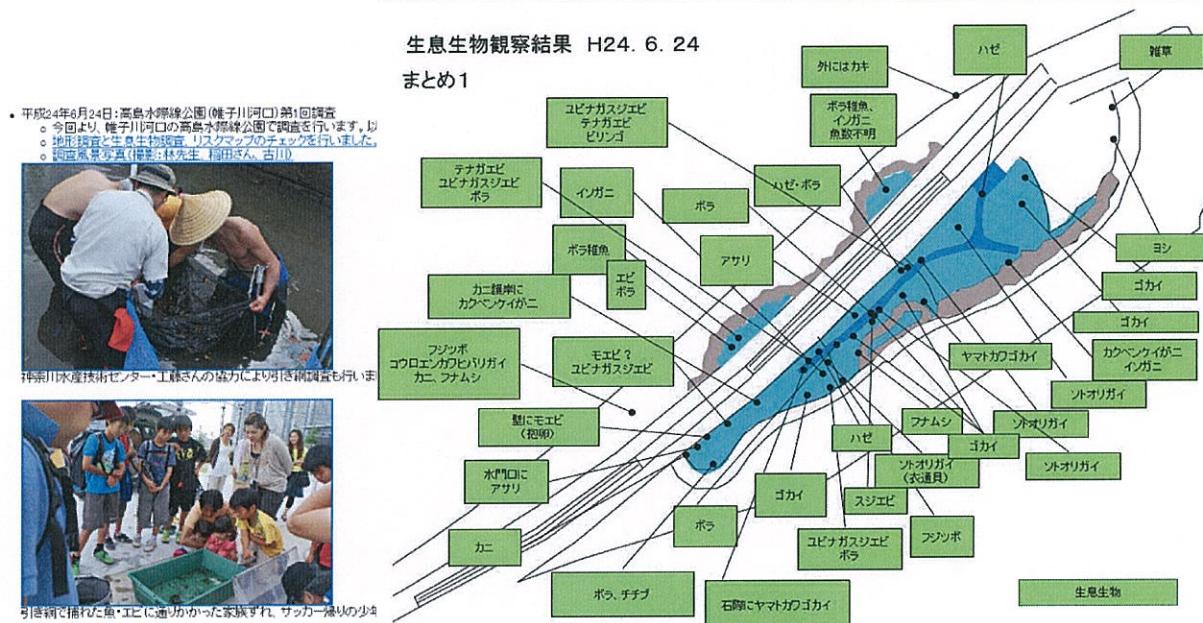
(8) その他、特徴やアピールする点

都市の護岸や海水が出入りする砂場には様々な生き物が生息します。それらをさがし、ふれあう活動は子供たちにとっても非常に楽しいものであります。しかし、生物とのふれあいの仕方やどこにどんな生き物がいるかは地元の人々にとっては忘れ去られたものになっていると考えます。

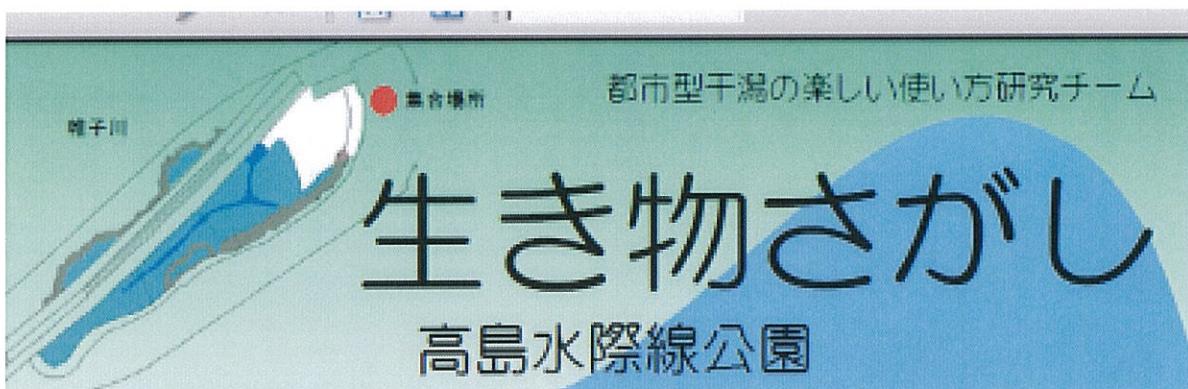
そこで、本調査では都市に再生された高島水際線公園に生息する干潟や磯場の生物の実態を調べるとともに、調査を地域の人々にも声をかけて実施し、生き物とのふれあいを楽しみ、時には非常に珍しい生き物が見つかったりする喜びを分かち合っていきたいと考えています。

【参考資料】 都市型干潟の賢い／楽しい使い方研究チーム Web サイト
プロジェクトの概要

目的	再生された都市型干潟において、市民や NPO 等が協働して干潟の創出、管理、利用するために、様々な活動を実施するとともに、その効果等を検証しながら、「誰でもできる都市型干潟の賢い使い方」「誰もが楽しめる都市型干潟の賢い使い方」について、研究することを目的とします。参加者は、造成干潟や潮入りの公園等での活動、観察を通して、都市に残された自然の不思議と海に親しむことの面白さを体験し、考え、行動していくことを目指します。
活動	平成 20 年 4 月から平成 23 年 3 月の 3 年間は、第 1 フェーズとして、横浜港湾空港技術調査事務所の管理する干潟・磯場「潮彩(しおさい)の渚」で、年度毎に検証をし、課題を解決していくながら、目標の 1 つである「誰でもできる都市型干潟の賢い使い方」のステップアップを図ってまいりました。平成 24 年 4 月からは、第 2 フェーズとして、横浜市の管理する高島水際線公園の潮入りの池で、「誰もが楽しめる都市型干潟の賢い使い方」について研究していく予定です。「都市型干潟の賢い／楽しい使い方」については、適宜まとめをし、学会での発表、報告会の開催を通して成果の共有を図って行きます。
備考	本 Web ページは、「都市型干潟の賢い／楽しい使い方研究チーム」内の情報交換・連絡に資することを目的として、公開されています。掲載されるデータ等についての品質管理には細心の注意を払っていますが、データの精度を公的に保証するものではありません。データは利用者の責任において利用してください。国土技術政策総合研究所はデータの利用によるいかなる損害・不利益に関して一切の責任を持ちません。なお、商用の利用は禁止します。



平成 24 年 6 月 24 日 活動状況



みなとみらい21地区の帷子川(かたびらがわ)沿いに「高島水際線公園」が完成し、平成22年5月25日より一般開放されています。この公園を都市の中の海辺の自然として、「楽しく」利用していくために、市民、企業、専門家が集まり、月1回の観察会をすることにいたしました。

趣旨に賛同し、ご一緒に「楽しむ」方々を募集しております。下記の活動日に、濡れても良い恰好で、公園内、潮入りの池においてください(事前登録不要)。

活動予定 (<http://www.meic.go.jp/wiseflat/> をご覧ください)

活動日(平成24年度、集合時間、活動は1~2時間) 調査メニュー

- ・ 6月24日(日)13:00-(13:46, 35cm)
- ・ 7月22日(日)14:00-(12:54, 31cm)
- ・ 8月19日(日)10:00-(12:01, 33cm)
- ・ 9月17日(月)10:00-(11:38, 50cm)
- ・ 10月14日(日)9:00-(9:55, 60cm)
- ・ 12月16日(日)12:00-(12:50, 99cm)
- ・ 1月14日(月)12:00-(12:30, 77cm)
- ・ 2月11日(月)12:00-(12:00, 60cm)
- ・ 3月17日(日)13:00-(14:00, 35cm)

(カッコ内は干潮時と潮位)

- ・ 生き物さがし:生物リスト作成
- ・ 安全のために:リスクマップ作成
- ・ 魚を探す:曳き網調査 *
- ・ みんなでさがす:公園調査 *
- ・ みんなで知る:成果発表会 *

*毎のメニューは、調査日の内で実施予定ですが、具体的な実施日は未定です。ウェブページなどでご確認ください。

参加されるときは、濡れても良い恰好(疊袖、襷の長いズボン等)、足元の滑りにくい靴(サンダル・裸足不可)、日射病対策(帽子、のみ水)にご留意ください。チームメンバーもみなさんが安全に活動できるよう服を配りますが、安全確保は、参加者ご自身でお願いいたします。

高島水際線公園とは

横浜駅から徒歩5分

高島水際線公園は、(独)都市再生機構が整備し、横浜市が管理している公園です。国道1号築地橋からはじまる水際線プロムナード(遊歩道)と直結し、新たなウォーターフロントにおける都公園として建設されました。

都市の中においても豊かな自然を感じることができる場所として、地区内の就業者や居住者だけでなく、多くの来街者が訪れる新たな公園としても期待されています。

なお、本公園の潮入りの池は、普段は立ち入り禁止です。本活動は、横浜市から許可を受けて実施しております。

連絡先: 国土技術政策総合研究所 046-844-5026 古川
<http://www.meic.go.jp/wiseflat/>

